

平成20年度事業報告書

1 鑑賞研究事業

(1) 本部主催鑑賞研究会

平成20年度「刀剣鑑賞会」は8月・11月・12月を除き毎月第2土曜日に実施。各回平均60名参加。

(2) 支部主催鑑賞会

支部鑑賞会等への講師派遣・鑑定刀貸与

各支部の活動に協力し、その要請に応じて講師の派遣と、参考刀・鑑定刀の貸与を行なった。平成20年度講師派遣と鑑定刀の貸与延べ123回、鑑定刀貸与のみ延べ17回。講師派遣に伴う旅費の本部負担は1支部あたり上限3回とした。なお、講師及び支部が携行する貸出しの刀剣類について、それぞれの評価のうえ損害保険を契約して損害防止に対応した。なお、保険料の半額は支部負担とした。

2 第43回全国大会

第43回全国大会は、協会設立60周年・たたら操業30周年を記念して、平成20年11月8日・9日の2日間、主会場を東京新宿の京王プラザホテルとし、第2会場を刀剣博物館として開催した。

大会には、北は北海道から南は九州まで全国各地の会員、さらにアメリカ支部、ヨーロッパ支部の外国会員も参加され、参加者数は協会の役職員等を含めて450名余となった。

3 講習会及び研修会事業

(1) 美術刀剣製作技術保存研修会

(ア) 刀職技能訓練講習会

第22回講習会は会場を岡山県瀬戸内市の「備前長船刀剣博物館」で行い、刀身仕立の部・柄下地の部・刀装金具の部の3部門を同時開催として6月24日～同月26日の3日間で実施した。

受講者は柄下地の部5名、刀身仕立の部9名、刀装金具の部10名。

講師は柄下地の部は柄巻師の坂入眞之。刀身仕立の部は刀匠の上林勇二、刀装金具の部は白銀師の羽川安穂の各講師が担当した。

(イ) 刀剣研磨・外装技術研修会及び鍛冶研ぎ研修会

第41回刀剣研磨・外装技術研修会及び第35回鍛冶研ぎ研修会を当協会4階講堂において実施した。研磨の部と鍛冶研ぎの部は8月25日～同月27日、外装の部（鞘の部、柄の部、鍔の部）は8月28日～同月30日の各3日間開催。特別研修生6名、研修生14名、聴講生47名、計67名の参加があった。

講師は研磨の部は研師の杉原弘、柳川清次、斎藤司、鍛冶研ぎの部が刀匠の吉原義一、鞘の部が鞘師の前田幸作、柄の部が坂入眞之、鍔の部が鍔師の羽川安穂の各講師が担当した。

(ウ) 作刀技術実地研修会

島根県仁多郡奥出雲町の「日刀保たたら鍛錬道場」において第26回作刀技術実地研修会を実施した。9月29日～10月2日の期間で、特別研修生1名、研修生2名、講習生12名の参加があった。

講師は刀匠の上林勇二、宮入法廣、吉原義一の各講師が担当した。

(3カ年の研修をもって修了)

4 審査公開事業

(1) 刀剣・刀装・刀装具の審査

区 分		受付点数	合格点数
保 存	刀 剣	5,394	3,279
	刀装・刀装具	4,193	3,217
特別保存	刀 剣	1,413	731
	刀装・刀装具	507	358

区 分		受付点数	指定点数
重 要	刀 剣	979	88
	刀装・刀装具	357	47
特別重要	刀 剣	268	32
	刀装・刀装具	29	5

(2) 新作名刀展

平成20年新作名刀展を開催した。作刀の部54点、彫金の部30点、刀身彫の部4点の出品。審査の結果、特賞4点、優秀賞8点、努力賞16点、入選45点があり、平成20年6月3日受賞作品の表彰を行なった。入選作品以上について平成20年6月3日～7月13日、刀剣博物館で一般公開し、入場料を無料とした。

(3) 刀剣研磨・外装技術発表会

第61回刀剣研磨・外装技術発表会を実施した。出品点数98点。審査の結果、特賞4点(研磨4)、優秀賞8点(研磨2、刀装3、白鞘1、白銀2)、努力賞12点(研磨5、白鞘3、柄前3、白銀1)、合計24点入賞。授賞式は12月4日に当協会講堂において行なった。また、入賞作品については、刀剣博物館において12月9日～21日まで公開・展示し、入場料を無料とした。

5 伝位に関する事業

平成19年度の伝位審議会を開催し、申請27名について審議の結果、初伝位8名、中伝位待遇9名、中伝位9名、奥伝位待遇1名、計27名が授与された。

6 刀剣博物館事業

(1) 刀剣博物館入場者

入場者は、一般9,945名、会員1,351名、学生1,138名、招待者580名、中学生以下872名、団体440名、計14,286名。

(2) 展覧会実施状況

名 称	期 間	主 催	後 援	会 場
古刀新刀名作展	3月25日 5月11日	協会本部		刀剣博物館
華やかな日本刀 備前一文字	4月 6日 5月18日	大倉集古館、佐野美術館、林原美術館、徳川美術館、日本経済新聞社	協会本部	大倉集古館
第20回特別重要刀剣等新指定展	5月13日 6月 1日	協会本部		刀剣博物館
平成20年新作名刀展	6月 3日 7月13日	協会本部		刀剣博物館
古刀新刀名作展	7月15日 11月 3日	協会本部		刀剣博物館
「日本刀展」輝く鐵の美	8月27日 8月31日	協会 奈良県支部	協会本部	奈良市美術館 ほか
日本刀名品展	9月 8日 9月15日	協会大分支部	協会本部	大分県立 芸術会館
協会設立60周年・たたら 操業30周年記念特別展 至高の日本刀・刀装・刀装具	11月 8日 11月16日	協会本部		刀剣博物館
東海道の名工たち ～正宗から村正まで	11月 8日 12月21日	佐野美術館、 三島市、三島市 教育委員会	協会本部、 静岡県教育委員会	佐野美術館
第54回重要刀剣等新指定展	11月18日 12月 7日	協会本部		刀剣博物館
第61回刀剣研磨・外装技術発表会入賞作品展	12月 9日 12月21日	協会本部		刀剣博物館
新春名刀展	平成21年 1月 6日 3月22日	協会本部		刀剣博物館

古刀新刀名作展	3月24日 6月7日	協会本部		刀剣博物館
---------	---------------	------	--	-------

7 会誌『刀剣美術』の発行事業

会誌『刀剣美術』を月刊で平成20年度は615号から626号まで発行し、会員に配布した。編集スタッフは協会職員のほかに専門分野に通じた協会役員を交え、毎月定期的に編集会議を実施して誌面の充実に勤めた。

8 資料の整備及び活用事業

刀剣、刀装具等に関する文献のほか参考資料の収集につとめ、研究者の利便を図った。資料室は、会員の資料のコピーサービス（有料）にも応じた。

9 寄託事業

刀剣、刀装、刀装具及び甲冑、武具、文献等の寄託に応じ、その管理、保存を行っているが、平成20年度の新規寄託申込みはなかった。

10 たたら事業

たたら操業を3代実施（平成21年1月18日から同2月7日）し、伝統技術の保存につとめた。なお、製造された玉鋼については、刀匠に配布し便宜を計った。

また、村下養成員11名を対象に、講習会を11回実施した。

11 修理事業

会員の要望により研磨、白鞘等の新調・補修など、保存上、適切な指導をした。

12 伝統技術保存等に関する事業

無形文化財としての日本刀の鍛造技術・研磨技術・刀装製作技術等の保存向上に資するとともに、玉鋼の確保を図るための窓口として伝統技術保存部会が設立された。

13 会員及び支部の状況

平成20年度末日現在の会員数、普通会员5,853名（うち外国会員278名）、学生会員19名、終身会員80名（うち海外会員9名）、維持会員17名、優遇会員32名、計6,001名。

支部は、現在80支部（うち海外2支部）である。

14 委託事業（伊勢遷宮）の状況

第62回神宮式年遷宮（平成25年 秋）に関する直刀、鉾、拵の制作協力は、平成

17年度から実施しており、平成20年度は鉾身55振の制作を開始した。

納入期限は平成22年3月末日である。

以上